

大阪市立扇町総合高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、平成13年度に商業高校から総合高校に改編し20年が経過し、本年度、扇町総合高等学校として、最後の入学生を迎えることになる。総合学科として6つ(令和2年度入学生からは4つ)の系列と多くの選択科目を設定しており、生徒のニーズに応じた多様で柔軟な教育活動を行っている。主体的に学習に取り組むことで個性を伸ばし、将来社会に貢献できる教養と技能を備える人材の育成をめざしている。系列の学習においては、資格・技能取得を学習目標の一つとして位置づけ、進路選択と結びつけた確かな学力を育成してきた。今後も時代の変化やニーズに応じて、これまでの学習形態や内容を見直していきたい。

キャリア教育においては、外部講師による実業教育講話、校外体験学習などを通して進路選択に繋げていく試みが功を奏し、生徒の多様な進路選択への対応が成果として表れている。現在、大学・短大・専門学校への進学者が毎年80%を超えていることを踏まえ、進学に向けた進路指導体制をさらに充実させ、教職員の専門性を生かしながら本校の学習活動の大きな柱として引き続き取り組んでいく。生徒がそれぞれの進路希望をかなえ自己実現を図るためには、確かな基礎学力を定着させることと並んで、興味・関心を広げる発展的内容について探究し、深く理解する学びが不可欠である。家庭学習の習慣を定着させ、生徒の自学自習を促す段階的かつ継続的取組が必要である。

令和4年度より学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を通して、思考力・判断力・表現力を育成することが柱の一つとなっており、本校においても、生徒が身に付けるべき所謂「21世紀型スキル」として、授業を中心に取り組みを行っていく。

生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくりの推進には、積極的な情報発信は欠かせない。学校ホームページや体験入学の充実など様々な手法を駆使しながらPR活動に努める。地域と連携を深め、教育的・社会的資源としても貢献できる学校づくりをすすめていく。

また、全教職員が意志を統一し、桜和高校への移行の準備を進めるとともに、学習環境の改善にも努めていきたい。

中期目標

●【施策1】【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校・家庭・地域)の実現】

- ・高い志を持って進路を切り拓くキャリア教育の推進
- ・安全・安心で快適な学校環境づくりと生徒の規範意識の醸成
- ・生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくりの推進

●【施策2】【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・「主体的・対話的で深い学び」の推進と「わかる授業」の創意工夫
- ・自分の意見や考えを積極的に表現し発信する力とICT機器を活用する力の育成
- ・グローバルな視野を持ち、「より良い社会をつくりたい」と主体的に考え、行動する力の育成

2 中期目標の達成に向けた年度目標

●【施策1】【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ・進路保障のための組織的な補習体制を構築し、主体的な学習習慣の定着を進め、進学実績へと繋げる。また、個に応じたきめ細かい指導・支援を充実させる。
- ・社会人としての規律を守り、マナーやモラルについて考えて行動できる生徒を育成する。
- ・生命や人権を大切にする精神を養うとともに、自他を尊重しながら、より良い学校生活を構築するために、協力して部活動や生徒会活動等に取り組む態度を育成する。
- ・学校図書館の利用促進を図ると共に、生徒が主体的に読書活動を行い、発信するなどの機会を増やす。また、学習できる環境づくりを実施する。
- ・地域との交流を深め、積極的な情報発信により中学校・保護者への広報活動を一層強化する。
- ・現在の教育内容に基づき教育環境の充実を図るとともに、桜和高校にスムーズに接続できるような教育環境の整備を行う。

●【施策2】【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・総合学科の系列の特色を生かし、資格等の学習目標を明確にした教育実践を展開する。
- ・各教科において「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を研究し、生徒の興味関心を高め、「わかる授業」を実践する。
- ・生徒の健康観を高め、社会の一員として公衆衛生の意義を理解し、校内外の美化や安全に向けて積極的に行動する態度を養う。
- ・次世代の教育情報化に向けて、ICTを活用した指導法など、桜和高校へと接続できる教育内容の開発を行う。
- ・「扇総生に身に付けてほしい力」として
①挑戦力②探究力③対話力④発信力⑤想像力⑥自他肯定力⑦キャリアプランニング力を設定し、すべての教育活動を通じて、それぞれの力の育成を総合的に行う。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・コロナ禍により多くの制限があり、また、府への移管、3校の統合により業務が増加している状況であったが、目標どおり達成できた。
- ・朝学や、系列・教科の指導において、資格や検定に取り組むことにより、生徒の学習習慣の確立、基礎学力の定着、学習意欲・進路意識の向上につながった。
- ・各教科で発表する機会を設けることで、生徒自ら行動し、学び、発信できる能力を育成することができた。
- ・教科の学習指導でICT機器を活用することで、多面的な授業が行われており、定着が図られている。
- ・「扇総生に身に付けてほしい力」（①挑戦力②探究力③対話力④発信力⑤想像力⑥自他肯定力⑦キャリアプランニング力）をすべての教育活動を通じてそれぞれの力の育成を総合的に行うことができた。

★ 評価基準対応表

- A : 目標を上回って達成した
- B : 目標どおりに達成した
- C : 取り組んだが目標を達成できなかった
- D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

学校経営

年度目標	達成状況
<p>・総合学科6系列の特色を生かし、資格等の学習目標を明確にした教育実践を展開する。</p> <p>・次世代の教育情報化に向けて、ICTを活用した指導方法の開発など、桜和高校へと継承・発展ができるよう工夫を行う。</p> <p>・各教科において「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブラーニングの視点に立った授業改善を研究し、生徒の興味関心を高め、「わかる授業」を実践する。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①【資格・検定合格率の向上】【施策2】</p> <p>授業で扱う学習内容の精選と補習体制の相乗効果で、大学など専門教育につながる資格・検定取得率の向上を図る。</p>	B
<p>指標 各教科において資格・検定合格率を向上させる。</p>	
<p>取組内容②【表現力の育成・ICTの活用】【施策2】</p> <p>自分の考えや主張を表現するための語彙力や表現力をつける。またICT機器を活用し、校外で積極的にそれらを発信する機会を設ける。</p>	B
<p>指標 近畿地区総合学科研究大会、英語スピーチコンテスト、生徒商業研究発表大会等の校外での大会で発表を行う。</p>	
<p>取組内容③【主体的な学びの育成】【施策2】</p> <p>教員と生徒、および生徒同士で双方向での意見交換や体験型学習を積極的に取り入れ、生徒が主体的に発表を行えるような知識を習得できる授業を実践する。</p>	B
<p>指標 系列の特色や教科の専門性を生かし、生徒が企画・運営する機会を年1回以上設ける。近畿地区総合学科研究大会、生徒商業研究発表大会等の校外での大会で発表を行う。</p>	
<p>取組内容④【教育施設設備の保守・改善】【施策1】</p> <p>昨年度に整備された空調機器の保守、現存のICT機器の改善を図り、生徒の学習環境の整備を充実する。</p>	B
<p>指標 ICT機器・視聴覚機器の改善を行う。</p>	
<p>年度目標の達成状況の結果と分析</p>	
<p>①1, 2年生では朝のSHRで小テストを実施し、大学入試等に向けた学力養成を行った。また、3年生は、希望者に対し業者による模擬試験を実施し、大学受験に対する生徒の意識向上を図った。</p> <p>②「総合探究」等の授業でプレゼンテーション能力の育成を行った。</p> <p>③現在のところ、新型コロナウイルスによる緊急な学校休業になることがないことから、双方向通信を活用した授業は実施していないが、Edmodelによる担任から生徒への連絡等は、実施できる状況にあるが、次年度には、一人一台端末が整備されるため、これを活用方法を進める。</p> <p>④HDMI変換コネクタの使用頻度が高く、壊れた物もあるため、マイクロSDを使用できるタイプの変換コネクタの購入した。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>次年度には、ギガ構想によるネットワークが整備されるため、オンライン教育についての研究・実践を進めていく。</p> <p>生徒が自主的に深い学びを行えるよう組織的に取り組むとともに、学校全体で生徒の7つの力のさらなる育成を推進する。</p>	

教務部

年度目標	達成状況
本校生が有意義な高校生活をおくるために必要な教育内容の確立。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【教育内容の検討】【施策2】 本校生に必要な知識及び態度を再度確認し、それを授業で実現していくための教育内容を検討する。	B
指標 教科主任会を年3回以上開催する。	
取組内容②【将来設計の推進】【施策2】 3校統合に関わって、どうすれば本校生が今まで以上に、意味のある高校生活がおくれるか、具体的に検討する。	B
指標 教務部の部会を月2回以上開催する。	
取組内容③【防災・減災教育の推進】【施策1】 避難訓練のあり方を検討し、防災・減災教育をより重視した避難訓練を実施する。	B
指標 避難訓練を年1回以上実施する。	

年度目標の達成状況の結果と分析
①9/9(木)、12/2(木)に教科主任会を開催し、次年度「総合探究」及び選択科目について確認を行った。開催回数は2回と少なかったが、プリント配布等で情報の共有を図った。 ②部会はほぼ毎週実施しているが、11月以降、新校や府移管に関わる外部会議が多いため、開催頻度が減っている。次年度の新校開校に向けて課題は山積みだが、一つずつ解決するよう努力している。 ③9/3(金)に避難訓練を実施した。雨天のため、グラウンドへの避難訓練はできなかったが、講話等で防災等の心構えは伝えることができた。

次年度への改善点
次年度には3校統合・新校開校が行われるので、その中で本校生をどのように育てるかを具体的に計画し実現する必要があると感じている。 ①次年度「総合探究」について、これまでの内容を確保できるよう計画を立てることができたので、次年度はその計画を実現したい。その他の教育内容についても、今まで同様の内容が保証されるよう計画している。 ②教務部で検討は行ったが、未確定な部分が多いため、次年度の課題としたい。 ③新校舎が完成したので、新たな避難経路の設定が必要である。また、改めて、地震・津波等の防災計画を確認する必要がある。

生活指導部

年度目標	達成状況
「よりよい社会」を作ることに貢献する人材の育成を目指し、その基盤となる生活習慣と態度を身に付けさせる。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的生活習慣の確立】【施策1】 朝の校門指導等、学校生活全般を通して、あいさつ、言葉遣い、身だしなみの大切さを意識させる。また、規範意識を理解させ、より安心安全で平和な学校づくりを目指す。	B
指標 遅刻者数(教務遅刻者数)年間350名以内を目指す(前年度496名)。	
取組内容②【主体的に行動する生徒の育成】【施策1・2】 体育祭、文化祭等を通して、生徒一人一人が主体的に行動する機会を増やし、生徒会活動をさらに活性化させる。また、社会に貢献できる人材として成長させるために、自らの意見をしっかりと伝える発信力の育成を目指す。	B
指標 生徒会執行部を中心として、行事の企画・運営を行えるよう指導する。	
取組内容③【教師間や家庭・地域との連携】【施策1】 学級担任や学年、保護者と緊密に連携し、生徒の問題行動に対し迅速かつ適切に対処する。中学校・高等学校の生徒指導部連絡協議会を通して、生徒の実態を把握し、問題行動の未然防止に取り組む。	B
指標 生指・学年・健康教育部との連絡会を年間8回以上開催する。	

年度目標の達成状況の結果と分析
①1年間毎朝継続して、登校時の校門指導を実施することができた。今年度は生徒会や風紀委員の生徒も積極的にあいさつ運動に取り組み、日常的な活動として定着した。身だしなみの指導については、SHRでの風紀指導なども実施し、落ち着いた校内の雰囲気を持続することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症対応の継続で体調不良や通院を理由にした遅刻が多かったため、教務遅刻の数値目標だけは達成することができなかった。 ②コロナ禍で他校では中止されることもあった体育祭、文化祭であるが、本校ではどちらも無事に実施することができた。生徒会執行部や各係役員生徒も、担当教員の指導の下で活躍してくれた。また、令和4年度の統合に向けて、南高校・西高校の生徒会との意見交換などにも取り組むことができた。 ③学年生指担当、保健室との連携を図るため、連絡会を年間8回以上(1月末日現在10回)実施することができた。コロナの影響により、学校外の団体等との連絡会や研修会は中止されることが多かったが、登下校時に不審者が出た際などには生徒の安全確保のために天満警察署と連携して対処することができた。

次年度への改善点
コロナが収束しないうちは遅刻数の削減を強調した指導は難しいと考えられるが、ひとつの目安としては今後も意識していきたい。服装および頭髪については、本校生の現状は無理なく落ち着いた状況にあるので、令和4年度の統合以降もできるだけこの流れを継承していきたい。今年度は登下校時に生徒が盗撮や痴漢の被害に遭うことがあったので、次年度に向けて生徒や保護者に対して注意喚起したい。

進路指導部

年度目標	達成状況
自己理解を深めて進路意識を高め、より主体的な進路決定ができるよう支援する。 また、早期より進路実現をめざした学習が行えるよう、支援する。 卒業後の進路を見据えた上で「生徒に身につけさせたい能力」を身につけられるような指導を考える。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【進路意識の向上】【施策1】 生徒の進路希望に対応した説明会や講義、講演会を行う。1年次には大学等への見学会、2年次には分野別模擬授業を、3年次には校外において大規模な進路説明会を実施する。	B
指標 3年間で3回の分野別説明会を行う。	
取組内容②【進路希望実現の支援】【施策2】 各学年に対応した外部模試や講習会を数多く開催し、生徒の進路実現のサポートを行う。特に面接指導や小論文指導などでは本校教員だけでなく外部講師を招いた指導も行う。	B
指標 1年次では年3回、2年次は年間1回の実力テストを実施する。 2、3年次で合計4回の小論文添削指導を行う。 3年次には面接試験を受験する生徒に対し、3回以上の個別指導を行い、学力検査を受験する生徒には3回以上の模擬試験を受験するよう指導する。	
取組内容③【保護者に関わった進路指導】【施策1】 保護者を対象とした進路説明会などを実施し、生徒だけでなく保護者に対しても進路意識の向上を促す。特に保護者に対しては、奨学金制度の説明を含めた学費の問題に力を入れる。	B
指標 2年次、3年次にそれぞれ1回、保護者対象進路説明会を行い、生徒の進路意識の向上に対し協力を促す。	
取組内容④【学習意識の向上】【施策2】 定期考査前には土曜自習室として会議室を開放し、常に進路を意識した学習ができる環境を確保する。	B
指標 年5回の土曜自習室を行う。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
<p>昨年に続き特殊な状況での進路指導となっている。しかし、このような状況下であっても生徒には精一杯バックアップができた。</p> <p>①校外でのガイダンスは昨年に続き校内実施となったが、規模は縮小することなく実施できた。生徒の進路選択において有効であったと考えている。</p> <p>②実力テストだけでなく、小論文指導や外部模試などを活用し、進路意識を高めることができた。</p> <p>③12月には2年生の保護者対象の進路講演会を開催し、多くの保護者の方と連携を取ることができた。</p> <p>④土曜自習室には毎回多くの生徒が参加している。引き続き先生方のご協力をお願いしたい。</p>	
次年度への改善点	
<p>次年度より3校合同で進路指導を行うべく、ガイダンスや講演会・外部模試など行事の精選を行い、担任の先生と密に連携を取りながら指導を行いたい。</p> <p>次年度は3校240名の進路指導を行う必要がある。非常に多岐にわたる可能性が高いので、先生方に協力をいただきながら、生徒のバックアップに努めたい。</p>	

健康教育部

年度目標	達成状況
安全で安心できる学校の実現と、自己の健康を保持増進し、校内美化に取り組む態度の育成。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【自己の健康を保持増進する】【施策2】 自分の健康と共に社会の一員としての健康維持の大切さ、公衆衛生の意義を理解する保健指導を行なう。また、保健だより、保健委員会からの呼びかけなどにより、健康管理を自主的に行なえるようにする。	B
指標 保健だよりを毎月1回発行する。	
取組内容②【環境教育】【施策2】 清掃活動や、環境委員の清掃場所巡視の活動、呼びかけにより、環境を守る意識の醸成を高める。	B
指標 環境委員会としての清掃場所巡視を月に2回行う。	
取組内容③【スクールカウンセラーとの連携】【施策1】 スクールカウンセラーとの連携をはかり、支援を要する生徒等の問題に対応する。直接面談以外にも、問題解決のヒントになるような掲示物などを工夫する。また、スクールカウンセラーの利用を啓発し、心身のケアを必要とする生徒の早期発見をめざす。	B
指標 スクールカウンセラーだよりを月1回発行する。	
取組内容④【安全で安心できる学校の実現】【施策1】 生徒が主体となる活動を通じて健康に関する意識を高め、安全、安心できる学校になるようなリーダーの育成を行う。	B
指標 学校保健委員会を年1回開催する。	

年度目標の達成状況の結果と分析
①保健だよりを月1回発行し、健康維持・公衆衛生への意識の向上を呼び掛けた。手洗い・消毒などは生徒の日常行動として定着している。 ②前後期環境委員による清掃場所巡視を月2回平均で行っている。清掃が行き届いている場所や汚れが目立つ場所を翌日の放送で生徒に周知したり、清掃を呼び掛けたりした。回を重ねていくうちに環境委員の巡視も丁寧になり、汚れの残っている場所によく気づくようになった。 ③1月31日までのカウンセラーの利用が29件あり、昨年より増加した。特に年度初めの利用が目立ったことから、環境の変化への不安をもつ生徒が多いと考えられる。また、月1回のカウンセラーだよりを発行し、カウンセラーの利用を啓発した。 ④12月21日に学校保健委員会を行った。生徒保健委員がアンケートの集計、考察、発表を行うなど、主体的に取り組んだ。

次年度への改善点
次年度は4校、720名となるにあたって、検診の進め方などを工夫するとともに、学校生活上の配慮やカウンセリング等を必要とする生徒の把握や引継ぎについて、担任や生活指導部との連携をさらに密にする必要がある。また、委員会活動の整理を行うとともに、新しい保健室の利用しやすさの工夫や、感染症対策などにも柔軟に対応していきたい。

図書部

年度目標	達成状況
統合に伴う準備と作業を円滑に行い、蔵書の精選・管理と生徒および教職員が利用しやすい図書館運営を推進する。 図書委員会の活動を活発にし、生徒の責任感、主体性、発信力等を育成する。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【蔵書の精選と管理】【施策1】 図書館システムを効果的に運用して蔵書を精選する。 汚損などで利用のない図書の廃棄をするなど、新校舎への移転、統合後の図書館運営が円滑にできるよう準備を行った。 指標 年間2000冊の廃棄業務を行う。	A
取組内容②【館内整備】【施策1】 配架や展示の方法なども工夫し、手に取りやすく落ち着いて読書・学習のできる環境を整える。円滑に移転作業が行えるよう準備を進めた。 指標 来館者数1000名を目指す。	B
取組内容③【図書館利用の促進】【施策1】 図書館通信「ライブラリー」を発行し、新着図書やテーマ展示の周知を図る。生徒・教職員のニーズに応えられるよう、リクエストを受け付けるなど、利用しやすい図書館運営を行った。 指標 年5回図書館通信「ライブラリー」を発行する。	B
取組内容④【図書委員会の活動の充実】【施策2】 図書委員会活動をさらに活性化させ、カウンター業務や図書館整備など図書館の利用促進についても、生徒が主体的にアイデアを出して取り組めるようにする。 図書委員が中心となって読書会を企画し実施する。 指標 各クラスの図書委員に図書当番を割り当てる。読書会を実施する。	B
取組内容⑤【視聴覚行事の実施と次年度の計画】【施策2】 2021年度の視聴覚行事を、各分掌との連携を図りながら実施する。 指標 今年度の視聴覚行事を実施する。	B

年度目標の達成状況の結果と分析

①移転に向けて廃棄の手続きを進めるとともに、他校への譲渡や新校へのスムーズな移行を行うべく準備を行い、約2600冊の図書の廃棄手続を行った。各部署、先生方のご協力により、無事新館図書館への移転を終えた。

②移転準備のためにやむなく二学期期末考査後から年明けまで休館したが、在校生が少しでも新図書館を利用できるよう、三学期から開館した。未配架の書籍もある中ではあるが、さっそく毎日勉強に訪れる生徒もあり、年間利用者は約2000名となった。

③④コロナ禍の影響もあり、図書委員の活動は部分的なものになったが、図書委員長・副委員長の推薦する図書を「ライブラリー」に掲載し、図書委員推薦の本を手に取りやすいところに配置した。読書会はコロナ感染状況に配慮して、昨年同様「紙上ビブリオバトル」を実施した。

⑤10月19日、エルシアターにおいて、劇団タルオルムの「チマチヨゴリ」を鑑賞した。生徒の反応もよく、内容についても概ね好評であった。

次年度への改善点

扇町総合高校に加え、南高校、西高校および桜和高校の生徒が利用しやすい図書館づくりが必要である。新年度からの施設の利用や運用についてできるだけ早く情報を得、対応できればと考えている。

人権教育

年度目標	達成状況
生命や人権を大切にする精神を養うとともに、自他を尊重しながら、より良い学校生活を構築するために、協力して部活動や生徒会活動等に取り組む態度を育成する。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【いじめ防止】【施策1】 いじめを許さない学校づくりをめざす。いじめについて考える日を設定し、講話などを行う。また、いじめアンケートなどを通して生徒の実態を把握し、適宜いじめ防止委員会を開催する。	B
指標 いじめアンケートを年3回実施する。	
取組内容②【生徒向け人権講演会などの実施】【施策2】 講演会などを通じて、生徒がさまざまな人権問題について感じ、考える機会を設ける。他の分掌とも連携し、より効果的な行事の在り方をめざす。	B
指標 年1回実施する。	
取組内容③【教職員向け人権研修への協力】【施策1】 教職員向け人権研修の企画に協力し、情報収集と外部調整を行う。	B
指標 教職員向けの年1回の企画に協力する。	
取組内容④【人権教育委員会の活性化】【施策1】 校外の人権研修会に参加するなど、さまざまな人権に関する新しい情報を収集し、委員会で共有・活用する。	B
指標 校外研修に1回以上参加し、校内の人権教育委員会を年間2回以上開催する。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
6月、1・2年生を対象とした人権講演会を実施した。 現在、コロナウイルス感染症のため研修会などに参加したり、実施することを自粛している。3年生においては、12月、18歳の投票についての研修を実施した。いじめアンケートでは、担任団と連携して実施するとともに、いじめに関する事案もなかった。校外人権講演会については、人権委員と役割分担し、多くの先生方に参加してもらえた。	
次年度への改善点	
全体での講演会も大切であるが、学年に応じた人権研修会なども実施していければ良いと思われる。	

教職員研修

年度目標	達成状況
教員の授業力向上を通して、学校全体の教育力の向上に取り組む。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【授業力の向上】【施策2】 教員が相互の授業を参観する機会を活用し、授業見学や他の教員からの意見を参考に自己の授業の「振り返り」を行い、授業力の向上と改善に取り組む。また、ICTを活用した双方向による授業等についても推進を図る。 指標 校内公開授業週間を年2回実施する。	B
取組内容②【校内研修の実施】【施策2】 人権教育・安全衛生などを題材に、今日的課題について教職員の見識を広げ、意識を高める。 指標 校内研修を年間に2回以上行う。	B
取組内容③【外部研修への積極的な参加を奨励】【施策2】 大阪市教育センター他の各種研修、研究会に参加し、研鑽を深めることで最新の教育情報を獲得し、自己研鑽にも努める。研修予定を随時提供し、参加を促進する。 指標 教員1人あたり1回以上研修会に参加する。	B
取組内容④【若手教員の育成】【施策2】 「主務教諭」をはじめとする中堅以上の教職員が、授業見学や意見交換などを積極的に活用して、若手教員の授業力・生徒指導力等の育成を図る。 指標 系列長、分掌長、教科主任および主務教諭は、若手教員1人あたり1回以上指導する。	B

年度目標の達成状況の結果と分析
① 6月と11月に「校内授業公開週間」を実施し、他者からのフィードバックにより自らの授業力向上に生かすことができた。 ② 安全衛生委員会で話題になった新型コロナウイルス感染防止に関する資料を校内掲示板に掲載し、教職員の見識を広げるよう努めた。 ③ 教職員に対する研修については、各部向けに回覧用のプリントを配布したり、校内掲示板に掲載するなどを行い、研修への参加について促進を行っている。 ④ 中堅以上の教職員が、若手教員の潜在能力を引き出すコミュニケーションを学校行事や各管理室での日々の会話や打ち合わせ等の中で図っている。

次年度への改善点
新校舎における施設・設備が活用可能になったため、授業内容によっては、これらの施設・設備を活用した授業が期待できるため、校内公開授業については継続して実施していきたい。今年度、初めて教職員向け研修でオンラインを用いて実施した。講師の謝礼金も不要であることから、今後においても、テーマに応じてこのような研修形態もよいかと考えている。

系列-大阪文化系列

年度目標	達成状況
系列としての独自性を確立し、系列行事を充実させるとともに、進路目標に応じた学力の獲得を支援する。	A

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【系列としての独自性】【施策2】 系列の授業時を利用して、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的な学びを推進する。また、各所へのフィールドワークを実施し、日本文化や「大阪」について体験的に学ぶ機会を設ける。系列独自の様々な取り組みを通して、大阪の魅力や課題等を発見し、発信する力を養う。 指標 2・3学年ともに年1回以上の校外学習を実施する。	B
取組内容②【基礎学力の定着】【施策1】 進路指導部や各学年とも連携して課題を提示し、自宅学習の習慣化、基礎学力の定着を図る。また、補習等を通して大学入試にも対応できる学力の向上を目指す。 指標 放課後や長期休業中など様々な機会を利用して補習授業を行う。	A
取組内容③【検定の充実】【施策1】 英語検定、漢字検定、大阪検定など各種検定を紹介し、可能な限り挑戦させる。また、検定に向けた学習を通して、学習習慣の確立や学習意欲、進路意識の向上につなげる。 指標 在学中に3回以上各種検定に挑戦させる。	A
取組内容④【教科との連携】【施策2】 2年生の英語の授業を利用して、「大阪の文化」についてスピーチを行い、国外にも大阪の魅力発信する力を養う。 指標 C-NETに「大阪の文化」について英語で伝え、理解してもらう。	A

年度目標の達成状況の結果と分析
①「古典演習」で源氏物語の女君に対する調査、発表を行った。その他、各授業の中でもスピーチ等を取り入れアクティブラーニングを実践した。3年生は7月に「歌舞伎鑑賞教室」に、2年生は2月に「グローバル体験プログラム」に参加することができた。 ②夏季休業中や8月の補習期間、各種検定前などさまざまな機会を利用して、各教科、各学年と連携しながら補習授業を行った。 ③3年生46名中44名(96%)の生徒が目標を達成した。 ④グローバル体験プログラムを実施し、留学生に大阪の魅力を伝えた。

次年度への改善点
①各教科や他系列とも連携しながら、アクティブラーニングを取り入れた主体的な学びができるよう、今後とも内容を精査していく。また、次年度以降の校外学習について再考し、系列としての独自性を確保する。 ②大学入試に向けた補習や課題等、系列独自の取り組みをさらに強化し、進学実績につなげていく。 ③英語検定や漢字検定など、各学年とも多くの生徒が挑戦した。3年生は昨年度(88%)を大きく上回ることができた。次年度以降も各教科と連携し、目標の達成率と合格率のさらなる向上を目指していく。また、検定を一つのきっかけとして、学習習慣の確立や意欲・意識の向上につなげていきたい。 ④グローバル体験プログラムを通して、留学生との交流を図り、英会話や海外への関心を高めることができた。次年度以降も継続して参加していきたい。

系列-環境科学系列

年度目標	達成状況
理数系の学力を充実させ、理系進学が可能な系列を作る。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【学習意欲の向上】【施策2】 環境科学系列生徒に対する週末課題の取り組みを今年度も継続する。2年の環境科学系列生徒、および1年生で環境科学系列を選択した生徒に、進学に対応できるよう継続的な学習の習慣をつけさせ、基礎学力の充実を図る。 指標 週に1回課題を与え、理解度を確認する。	B
取組内容②【資格取得の促進】【施策2】 資格・検定試験への取り組みにより、生徒個々に対して日々の学習内容の理解の深化と実生活への応用を進めるとともに、積極的な挑戦や試験合格による自己肯定感の向上に繋げる。環境科学系列2年生で環境社会検定(eco検定)と危険物取扱者乙種4類の全員受験、2,3年生の希望生徒に実用数学技能検定や危険物取扱者乙種1・2・3・5・6類等の資格取得を奨励し、学習をサポートする。 指標 eco検定合格率70%、危険物取扱者乙種4類合格率80%以上を目指す。	B
取組内容③【環境問題への意識の向上】【施策1】 身近な環境問題や、国際的な環境問題に対する取り組みへの興味・関心を高めるため、環境科学系列2・3年生を「環境フォトコンテスト」および「国際協力エッセイコンテスト」に参加させる。 指標 環境科学系列の生徒は全員応募させる。	B

年度目標の達成状況の結果と分析
①1年生について、週末課題を与えて、学習意欲、学習習慣を身に付けるように取り組んでいる。2年生の生徒にも週1回課題を与えている。また、甲南大学の体験授業に参加した。実験を主体とした内容に、生徒も満足していた。 ②2年生について、今年度よりIBT試験になったeco検定を校内実施することができた。合格率は40%と、目標より低かったがあと少しの点数で合格という生徒が多かった。危険物取扱者乙種4類では合格率は40%となった。学習意欲を上げることができた。その他、3年生で乙4、乙6、にそれぞれ、1名、5名が合格した。 ③環境科学系列2・3年生が「環境フォトコンテスト」および「国際協力エッセイコンテスト」に作品を出品できた。国際協力エッセイコンテストで、3年生が佳作1名受賞。

次年度への改善点
資格・検定では前向きに取り組む姿勢が見られた。合格率という目標は達成できていないが、目標設定をして学習することで、2年生での中だるみをなくし、日々の学習に取り組んでいる。次年度以降も学習意欲の向上を目指した取り組みを進めていきたい。

系列-国際観光系列

年度目標	達成状況
観光産業で活躍できる人材の育成。国際社会に対応できるコミュニケーション能力の育成。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【資格取得の充実】【施策2】 専門的知識を持つ社会人講師を招聘することにより、観光産業について専門的な知識とカリキュラムで特色ある学びを自ら進んで学習させる。資格取得のために英語科や社会科とも協力し、チームで指導にあたる。「国内旅行業務取扱管理者」の取得をめざす。夏休みには直前対策補習をおこなう。	B
指標 「旅行業務取扱管理者試験」を100%受験させる。一人でも多く合格者を出す。	
取組内容②【観光産業の実践】【施策2】 バスツアーを企画・立案し自身の案が採用されるようにプレゼンし能力を養う。資格取得で学習してきたこと、実習してきたことを総合して実践し、仲間と協力・実行する能力を育成する。	B
指標 生徒企画運営のバスツアーを年に1回実施する。	
取組内容③【マナーの育成】【施策1】 校外の方々と接する機会を増やし、礼儀作法・マナーなど、社会人としての基本的な事柄はもちろん、バスツアーで活かせるビジネスマナーを養い、観光産業で働く素養(おもてなし力)を身につけたい。	B
指標 観光産業で働くひとの話(実体験)を聞く機会を年に1回はもうける。	

年度目標の達成状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験対策として外部講師による補習授業を計画していたが、コロナの影響で外部講師の調整がつかず、本校教員で補習をおこなった。 ・ 国内旅行業務取扱管理者合格2名を出すことができた。 ・ 昨年度から2度の延期を経て周遊パス勧告実習を実施することができた。 ・ バスツアーに関しては、コロナのため生徒のみで鉄道を利用し実施した。

次年度への改善点
観光実習で生徒が企画した旅行プランを、今後の校外学習や修学旅行の参考とする。

系列-マーケティングデザイン系列

年度目標	達成状況
デザインおよびその基礎となるマーケティングの必要性を理解させ、実践的なデザインのための知識と技術習得をめざす。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基礎知識、技能の充実】【施策2】 ・販売およびデザインに関する基礎的な知識・技能が身に付けられるよう指導を行い、実習作品に反映させる。 ・リテールマーケティング検定3級の受検やビジネスアイデアコンテストへの参加など、販売に関する取り組みを充実させ、独自商品の開発・販売をめざす。 ・色彩検定やグラフィックデザイン検定などの受検を促し、デザインの基礎となる色彩の知識を身に付けさせる。 指標 習得した知識を反映させて制作した作品を、実習室や廊下等に常に展示する。 検定の合格率60%以上にする。	B
取組内容②【自己表現】【施策2】 ・店舗企画～模型製作の授業を通じ、自分の創造力や意見などを発信できるよう指導し、育成する。 ・企画や作品について、プレゼンテーションを必要に応じて行い、考案意図や企画内容を適切に伝えられる表現力やコミュニケーション能力の向上を図る。 指標 プレゼンテーションを2年生3回、3年生4回以上行う。	B
取組内容③【コミュニケーション能力の向上】【施策2】 ・グループ制作などで、協力して円滑に作品制作ができるよう指導を行う。 ・企画、作品についてのプレゼンテーションを必要に応じて行い、訴求力やコミュニケーション能力の向上を図る。 指標 グループでの制作を各学年1回以上行い、生徒が協力して作品を制作させる。	B

年度目標の達成状況の結果と分析
①座学、実技を効果的に行い、課題制作や店舗企画等に反映させることができた。リテールマーケティング検定3級に14名(28名受検)が合格、色彩検定2級に7名(10名受検)が合格、グラフィックデザイン検定2級に11名(12名受検)が合格した。 ②課題制作の都度プレゼンテーションを行うことにより、生徒の表現力、発信力が向上した。学生Tシャツデザインコンテストで3年生1名が佳作に入選した。 ③科目によりグループ作品の課題制作を設け円滑に作品が完成するよう指導を行った。課題完成ごとにプレゼンテーションを実施し、訴求力の向上が図れた。

次年度への改善点
・新型コロナウイルスの関係で、欠席・出席停止の生徒が増えると、知識の定着や実習作品の制作には大きな影響が出ることから、その対応策をあらかじめ考えておく必要がある。 ・系列の実習室が美術室と兼ねるため、一部の作品制作がこれまでと同様に行えないことから、場所や内容を調整してシラバスの内容を行えるようにする必要がある。

系列-情報ネットワーク系列

年度目標	達成状況
情報社会に参画する態度を醸成し、情報基盤社会に資する人材を育成する。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【キャリア教育の充実】【施策2】 3年次のコンピュータ特論において、情報系大学への進学を視野に入れて高度な内容の情報システムに関する知識を身につけさせる。そのために小テストを繰り返し行い結果を次の学習に活かせるようにして、知識の定着を図る。	B
指標 ITパスポート 受験率30%以上	
取組内容②【「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】【施策2】 自ら行動し、学び、発信できる力を育成するために、プレゼンテーション実習授業で相互に発表を行い、評価し合い、内容を再構築して次の発表に活かす。発表活動を通して情報収集・加工・発信力を高め、情報モラルを身につけさせる。	B
指標 生徒商業研究発表大会などのプレゼン大会に1回以上参加する	
取組内容③【資格取得・挑戦力の育成】【施策2】 3年次のアプリケーション応用の授業において、表計算ソフトの応用的な利用技術や、ビジネス分野で利用される情報関連知識を身につけさせる。	B
指標 全商情報処理検定1級ビジネス情報部門の合格率が全国平均を上回る	

年度目標の達成状況の結果と分析

- ①ITパスポート試験 今年度受験者1名 合格者(19期累計)2名
 ②コロナ禍の状況が見通せなかったため、生徒商研への参加は断念したが、授業内でプレゼンを複数回行い、評価を行っている。
 ③来年1月の検定に向けて、学習を進めている。

次年度への改善点

系列は閉じるが、他系列の情報系の授業においても、情報の知識と技術を確実に身につけられるよう取り組んでいく。また、情報系の進学を考えている生徒へのサポートを行っていく。

系列-会計ビジネス系列

年度目標	達成状況
会計を中心とした商業教育を通して、経済活動についての理解を深め、自立的な自己実現ができるよう育成する。また、資格を取得することにより進路に対する自信をもたせ、希望の就職・進学をめざす。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【会計力の強化】【施策2】 企業での資金の流れや会計処理について理解させ、全商簿記検定において、1年で3級、2年で2級、3年で1級レベルの能力を育成する。	B
指標 全商簿記検定取得率 3級98% 2級90% 1級50% をめざす。	
取組内容②【職業人としての心構えやマナーの育成】【施策1】 総合実践において、社会人としての心構えやビジネスマナーを身につけさせ、職業人としての基礎を養う。ビジネスマナーや面接が検定内容に含まれるビジネスコミュニケーション検定を取得させる。	B
指標 ビジネスコミュニケーション検定合格率 90% をめざす。	
取組内容③【経済活動を主体的に考える力の育成】【施策2】 ビジネス経済や商品開発などの商業系科目では、身近な経済行為と経済事象の関連を意識させる。世界経済の動きが自身の生活に直結していることを実感させ、時事問題について主体的に考え、判断できる力を育成する。	A
指標 時事問題などについての解説や、問題に対して自分の意見を持てるようになる。	

年度目標の達成状況の結果と分析

- ①2年生での2級取得については、6月の検定で93%合格し、すでに目標を超えている。1年生と3年生については、1月の検定に向けて順調に進んでいる。
②ビジネスコミュニケーション検定は全員合格し、目標を達成した。
③鋭意取り組み中である。

次年度への改善点

- ①検定合格率は1年3級90%、2年2級96%、3年1級54%となった。3級で目標に達しなかったものの、大阪の平均は例年70%程度なので、それほど悪い数字ではない。
②ビジネスコミュニケーション合格者は100%であり、ビジネスマナーが身についた。
③商品開発では、実店舗と協力して商品企画から実売まで行うことができた。ビジネスアイデア甲子園にも参加し、ビジネスについての総合的な能力を身につけることができた。

令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

教科指導—国語科

年度目標	達成状況
授業や家庭においての能動的な学習習慣を身につけさせる。 基礎学力を充実させるとともに、目標をもって主体的に学習に取り組む姿勢を養う。 国語科教育を通して、情操教育を推進する。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基礎学力の定着】【施策1・2】 教材を精選、工夫することにより、学習に取り組む意識を引き出し、基礎学力の定着を図る。さらに適宜アクティブ・ラーニングを取り入れ、意欲的に学習に取り組む姿勢を養う。	B
指標 宿題を課す。週1回確認テストを行う。プレゼンテーションやディベートを行う。	
取組内容②【進路実現の支援】【施策1】 多様な進路希望に対応すべく、個々の生徒に必要な力を付けさせるための補習を行う。小論文指導や面接指導を通して、自己実現を促す。	B
指標 放課後および長期休業中に補習を行う。	
取組内容③【学年・系列との連携】【施策1・2】 学力の伸長を図るために、学年・系列と連携する。「産業社会と人間」、LHRでの取り組み、系列の進路指導に関する取り組みなどに協力する。漢字検定、文章検定、読書感想文コンクールなどを紹介し、より具体的な目標を持って学ぶことができるようにする。	B
指標 漢字検定(2回)、文章検定(1回)、読書感想文コンクール応募を行う。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
<p>①2、3年『現代文B』では、週一回の確認テストを行い基礎学力の定着を図ることができた。2年現代文では、修学旅行の事前学習を兼ねて、沖縄・戦争に関する事前学習で30秒スピーチを行い、沖縄県への関心を深め修学旅行への気持ちを高めた。「古典演習」ではプレゼンテーションを行った。</p> <p>②進路実現に向けての支援として、夏季休業中の補習を行い、小論文指導、志望理由書等の添削、面接指導などを行った。</p> <p>③漢字・文章検定を行った。漢字検定1回目は受験者100名に対し合格率は32%であった。文章能力検定は受験者10人に対し合格率80%であった。2回目の漢字検定は受験者45人であり、現在結果待ちである。</p>	
次年度への改善点	
<p>次年度は西、南、扇総と統合することから、生徒数も増えるため、今までよりも多様な進路に対応できるよう、補習の時期、対象者、内容などを再度検討し、できるだけ早い時期から効率的な指導をしていく必要がある。また各検定への関心も高い一方、自身で計画的に勉強するのが苦手な生徒も多い。次年度は、課題や補習を行うことで全体の意識を向上させ、合格者を増やしたい。</p>	

令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

教科指導—地歴公民科

年度目標	達成状況
基礎学力の定着をはかるとともに、社会事象に対する興味・関心を高め、自らの進路実現に役立つ学力の育成のため、主体的・対話的に学習を深める態度を育成する。	A

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基礎学力の定着】【施策1・2】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に即して、指導方法を工夫する。 ・主体的に学習に取り組む意欲の向上をはかるため、宿題や小テストなどをこまめに取り入れる。 ・学力を補充するため、補習や進学補習を行う。 	A
指標 平日の放課後および長期休業中に補習を行う。	
取組内容②【社会事象への興味・関心の高揚】【施策1・2】 <ul style="list-style-type: none"> ・時事問題や視聴覚教材を取り入れ、さまざまな視点で事象を捉える力を養う。 ・検定の受検や作文の応募などを促し、多様な分野への関心を高める。 	A
指標 検定の実施や税の作文への応募などを各1回以上行う。	
取組内容③【主体的・対話的な態度の育成】【施策1・2】 <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習やレポート作成などで論理的に思考を進める技能を取り入れ、主体的に課題に取り組む態度と意欲を育成する。 ・グループワークや発表など、対話的な方法を通して知識や技能を表現する力を育成する。 	B
指標 各学期で1回以上、課題学習や発表の機会を設定する。	

年度目標の達成状況の結果と分析
<p>①学力補充に力を入れ、夏休み以降現在にかけて補習を行った。日本史、現代社会、世界史とも夏休みは2～3回／週、2学期は1回／週で補習を行い、特に日本史は3学期にも補習を行った。さらに、授業録画をオンデマンド教材として家庭でも閲覧できるようにした。自宅待機の生徒や復習に活用できた。</p> <p>②授業中での視聴覚教材の使用に力を入れ、ほぼ毎回の授業で視聴覚教材を取り入れている。生徒の視覚を通じた内容理解や、科目を超えての社会的事象の視点育成に努めている。なお、検定試験については、世界遺産検定3級に5名受験し、5名とも合格した。</p> <p>③コロナ禍の影響により十分にグループワークに取り組めていないが、その代わりとしてレポート学習や授業の振り返りシートを活用し、主体的に学習に取り組めるようにしている。総合探求「新聞探求セミナー」では新聞を題材に小論文・質問紙やインタビューでの調査・発表、ポスター作成に取り組んだ。また、地理A、政治経済は3学期にレポート作成を行い、地理Aは代表者による発表も行った。</p>

次年度への改善点
<p>ウィズコロナ、またアフターコロナに向け、ICTを活用したオンライン授業での指導法について継続して研究をすすめる。新学習指導要領や大学入試共通テストのつながりを踏まえ、「探究」的な指導法についての研究を深める。さらに来年度も教育実習生を受け入れることから、上記事項を実習生への指導にも活用する。</p>

教科指導—数学科

年度目標	達成状況
確かな基礎基本的な学力の定着および発展的内容の探求を図る。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基礎学力の定着】【施策2】 1年の科目において、学力の定着を図るため、学年統一の課題を活用し、個々の学力に応じたきめ細やかな指導を、教科全体でおこない、その定着を図る。 指標 月1回程度の課題や確認テストを実施する。	B
取組内容②【学力の伸長】【施策2】 2年生の選択科目においては、習熟度別にクラスを編成し、基礎学力の向上をめざし、発展的内容に自ら挑戦する意欲を身につけさせる。 指標 月1回程度の課題や確認テストを実施する。	B
取組内容③【進路保障】【施策2】 3年は理系進学等の個々に応じた希望の進路実現に向けて、さらなる学力向上をめざし、指導する。 指標 希望進路に応じての補習や個別面談・指導をおこなう。	B

年度目標の達成状況の結果と分析
①担当教員間で相談しながら課題提出や確認テストの実施、個別指導を行った。確認テストを行うことで、細やかな指導ができ、学力定着について一定の成果が出た。 ②考查ごとに習熟度別クラスを編成しなおし、生徒の実態に合った内容の授業を行った。課題や確認テストについては、指標の頻度で実施することはできなかったが、家庭学習の課題を課すことで基礎学力の向上が図られた。 ③全体授業を行いながら、個々の生徒の実情に合わせた指導を行い、一定の成果を上げた。

次年度への改善点
①1年生の確認テストにおいて、達成状況の良くなかった生徒は補習を教科として行ったので、次年度もこれを継続したい。 ②2年生での学力向上は家庭学習によるところが多いので、その意義を理解させるよう指導を徹底したい。 ③3年生の進路実現については、今まで以上の早期からの指導を心掛けたい。

令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

教科指導—理科

年度目標	達成状況
日々の学習活動を通して、社会の一員として必要な科学リテラシーの涵養に取り組む	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【授業内容の精選】【施策2】 実験、実習やICT教材を積極的に活用し、暗記偏重にならないように体験を通して自ら思考する学習を促す。特に教科として各教員が協力することにより、画一的にならない授業展開を目指す。 指標 実験ごとにレポートを作成させる。	B
取組内容②【基礎学力の定着】【施策2】 自発的な学習の前提となる基礎学力と学習習慣の定着を図る。生徒同士が教え合い学習することで学習内容の理解を深める。課題や小テストなどを通して反復学習を促す。特に、1年生においては必要に応じてティームティーチングを行い、さらに重点的に基礎学力を定着させる。 指標 重点項目では同一課題を複数回学習させる。	B
取組内容③【資格・検定取得のサポート】【施策2】 希望進路の実現や将来への意識付けのため資格・検定取得を推奨し、放課後・長期休業中の補習など、そのサポートを行う。 指標 複数の資格・検定取得を目指す。	B
年度目標の達成状況の結果と分析	
①実験、実習の一部を演示に替えて行っている。ICT教材の提示にも積極的に取り組んだ。 ②基礎学力の定着に向けて同じ内容でも繰り返しさせた。 ③検定実施時期などに合わせて学習を進めた。 教え合い学習させることで学習の理解を深めたさせた。基礎学力がついて、十分に発展的な内容まで理解できている。	
次年度への改善点	
生徒が短期記憶に重点を置いた学習にならないような授業展開や指導方法を継続・実践していきたい。理数系に苦手意識をもって入学してくる生徒が多い傾向があるので、必修の基礎3科目については、より基礎基本の定着ができるように取り組んでいく。	

教科指導－保健体育科

年度目標	達成状況
生涯にわたって心身の健康を保持増進し運動に親しむとともに体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことを目標とする。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【健康や体力を保持増進する力の育成】【施策2】 実技種目において個人の基礎的技能の習得、体力の向上を目指す。 学年を重ねて実施する種目については、競争や協働の経験を通して主体的・積極的に取り組む姿勢、さらには自律した行動がとれるよう指導することを目指す。	B
指標 各学期に個人のスキルテストを一回以上実施する。	
取組内容②【健康や体力を保持増進する力の育成】【施策2】 個人的及び社会的における健康や安全について理解を深めるとともに健康について自他の課題とは何かを考えさせる。さらには持続可能な社会へ向けて目標を設定し、その課題に対して合理的な解決への意志決定・行動選択ができるようにする。 また、主体的・対話的で深い学びの時間を通して、目的や状況に応じて自己の考えを他者へ伝える力を養うことを目標とする。	B
指標 対話や討議の時間を各学期に1回以上設定する。	
取組内容③【安全で安心できる学校、教育環境の実現】【施策1】 運動を通して得た知識をもとに、公正に取り組む、自己の責任を果たす、一人ひとりの違いを大切にすることなどの意欲を育てるとともに、安全に授業が出来るように指導することを目標とする。また施設、設備の安全点検を各学期に実施する。	A
指標 施設、設備の安全点検を各学期に3回以上実施する。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
<p>①実施種目の基礎的技能が習得できるよう主に取り組んだところ、一人一人が主体的に技能の向上を目指す行動が見られた。今後は身に着けた技能をつかって他者との競争や、より高い技能を習得し実践に取り入れることができるよう授業を展開していく。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症が広がるなかで健康自体のとらえ方や健康のために個人や社会に求められることの変化について理解を深めている。今後も様々な自他の課題に対応できる能力を養えるよう対話や討議の時間を利用して取り組んでいく。</p> <p>③活動場所、更衣室など安全点検を定期的実施しているが、現在のところ異常はみられない。生徒は授業の中で活動場所の使用法や実施種目のルールを理解し、行動しているのが見受けられる。今後は習得した技能を応用し、生徒自ら試合を運営できるよう指導していく。</p>	
次年度への改善点	
個人の基礎体力向上のために、各種目において継続した指導が必要である。また3校統合することで、様々な種目の備品が使用可能となる。屋内外ともに実施種目の幅が広がり、スポーツ種目の楽しさを深めることができるようになるが、活動場所の使用法や実施種目のルールを十分に理解させ、より安全に実施できるよう注意していく。	

令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

教科指導—英語科

年度目標	達成状況
自らの進路実現に必要なとなる学力を培うとともに、「主体的・対話的で深い学び」を通して自ら考え、表現する力やコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基礎学力の定着】【施策2】 一人ひとりの状況を把握し、確かな基礎学力の向上を図る。家庭学習を含む生徒の自学自習への態度を育成する。精選した教材による問題演習と確認により、生徒の現状を把握し、適切な指導助言を与える。	B
指標 宿題を課し、週1回のテストや単元ごとのテストを実施する。	
取組内容②【主体的・対話的な態度の育成】【施策2】 生徒が主体的に課題に取り組める授業を探求する。ICT機器を活用するなどして、生徒同士が適切に表現したり伝えあったりすることができる、対話力や発信力の向上につなげる。	A
指標 各科目でペアワークやグループワークなど生徒による協同学習を毎時限行う。	
取組内容③【進路実現の支援】【施策2】 多様な進路希望を持つ生徒に対して、個々に応じて必要な力をつけさせるための補習を行う。	B
指標 放課後や長期休業中に進学補習や学力補充補習を行う。	
取組内容④【高大接続改革を見据えた、外部検定試験への対応】【施策2】 4技能評価への入試対応となる、実用英語技能検定試験などの受験を積極的に推進する。併せて、全商英検への受験を促す。受験者への対策補習も行い、受験に対する自信を持たせる。	A
指標 実用英語技能検定と全商英検について、前年度以上の受験推進を目指す。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
<p>①学習内容の定着のため、確認テストを行った。1年生は高校での学習習慣を身につけるため、課題の遂行状況を毎回確認した。</p> <p>②主体的に授業に取り組めるように可能な限りペアやグループで活動し、生徒がいつも受け身の授業にならないように授業を進めた。</p> <p>③生徒の多様な進路実現に対応するため、個別に補習を行ったり、学習アドバイスをを行うことが多かった。1、2年生は成績不振の生徒の学力補充の補習のみを行い、テストへの学習意欲を高めさせた。</p> <p>④全商英検、STEP英検ともに昨年度よりも多くの生徒が挑戦した。</p>	
次年度への改善点	
<p>コロナ禍においてペアワークやグループワークが制限される状況にあることが多く、本来できる学習活動を行いにくくなっている。全体的にほとんどの生徒は授業に前向きに参加し、課題の提出もできている。しかし学習内容の定着度が低いように思えるので、もう少し意識を高く持ち、知識が定着する学習ができるよう指導する必要がある。</p>	

教科指導—情報科

年度目標	達成状況
<p>情報および情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①【パソコンの入力操作】【施策 2】</p> <p>コンピュータの操作・活用に必要な、タッチタイピングおよびワープロソフトの基本的技術を習得させる。</p> <p>指標 日本語入力において、10分間で300字以上入力できる速度を身につけることをめざす。</p>	B
<p>取組内容②【情報モラル】【施策 2】</p> <p>知的財産権(著作権・産業財産権)について学び、情報を扱う責任とモラルに対する理解を深め、ネットワークを適切に活用する能力を育成する。</p> <p>指標 「社会と情報」の教科書の内容を70%以上理解させる。</p>	B
<p>取組内容③【表計算ソフトの活用】【施策 2】</p> <p>表計算ソフトの基本的技術や、パソコンのハードウェア・ソフトウェアに関する知識を身につけさせ、全商情報処理検定3級に合格する実力を養成する。</p> <p>指標 全商情報処理検定3級合格80%以上をめざす。</p>	B
<p>年度目標の達成状況の結果と分析</p>	
<p>授業の中で、取組内容の各項目に関する指導や学習を進めた。 11月に全商ビジネス文書実務検定3級、1月に全商情報処理検定3級を1年生全員が受験予定し、ともに80%以上の合格率をおさめることができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>来年度から科目名・科目内容が変わり、「情報Ⅰ」となる。座学と実習をバランスよく行い、座学で深めた知識を実習により体現するなど、相乗効果を実感できる授業展開をめざしていく。</p>	

教科指導－工業科

年度目標	達成状況
基礎技能の習得および総合学科の特長を活かした指導を図る。また、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基礎知識・技能の習得】【施策2】 基本的な知識・技能を習得させることで、各科目の課題などの質の向上を図り、目標により近づくように指導を行う。また、ICT機器を活用した実習や発表を充実させる。 <hr/> 指標 座学による基礎知識を課題制作に反映させられるよう指導を行う。プレゼンテーションをICT機器を使用して行う。	B
取組内容②【検定などへの取り組み】【施策2】 色彩系検定(マーケティングデザイン系列)、危険物取扱者乙4(環境科学系列)などの各種資格・検定への取り組みを行う。また、外部のコンテストへの応募など、自らが積極的に目標を定めチャレンジできる機会を増やし、授業に対する動機付けを工夫する。 <hr/> 指標 資格・検定の合格率60%を維持する。コンテスト等に1つ以上応募する。	B
取組内容③【教科間の連携】【施策2】 教科・科目間で情報交換を行うことで、体系的・系統的な指導内容を検討する。(商業科・理科・芸術科) <hr/> 指標 系列会などを通じて、教科間の情報交換を行う(年3回)。	B

年度目標の達成状況の結果と分析
①実習において適宜座学による説明を実習課題に反映させ、一定の成果をあげている。MD系列の実習においては、完成作品を中間モニターやプロジェクターに提示してプレゼンテーションを行った。 ②MD系列では、色彩検定2級に7名(10名受検)、3級1名(1名受検)、グラフィックデザイン検定2級11名(12名受検)が合格した。また、学生Tシャツデザインコンテストで佳作に入選した。環境科学系列では、危険物取扱者試験乙種4類に6名(14名受検)、乙種6類に4名合格(5名受検)、ECO検定に6名(14名受検)が合格した。 ③芸術科と連携して、芸術系進学者への指導を行った。商業科(商品開発)で考案した商品のパッケージデザインを行った。

次年度への改善点
各種検定について、意識付け、指導内容を吟味して、合格率の向上を図りたい。 3校統合や府移管に伴う人員配当やICT機器の正常稼働(Windowsやセキュリティソフトのアップデート、通信環境、動作確認)など実習環境が整うかどうか不安である。

教科指導—商業科

年度目標	達成状況
基礎学力および家庭学習を充実させ、総合学科の特徴を活かした指導を図る。さらに、将来の進路に役立てるよう資格取得を目指すことにより、挑戦力、自他肯定力、キャリアプランニング力の育成につなげていく。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基礎学力の向上】【施策2】 将来の進路に役立てるために各検定試験を念頭において授業を展開していく。特に基礎となる1学年の簿記の力を確かなものにして、次の段階につなげていく。 指標 全商簿記検定3級の受験者全員合格を目指す。	B
取組内容②【上級資格取得を目指す】【施策2】 将来の進路に役立てるように各検定試験を念頭において授業を展開していく。特に全商簿記検定1級の合格率を高める。 指標 全商主催の各検定1・2級の合格率が大阪府平均を上回る。	B
取組内容③【学力UP支援事業】【施策2】 教科の学習指導計画の目標を踏まえて生徒の学力を伸長し、検定試験前には特別授業を行い、合格者数の増加を図る。また、2・3学年の会計科目を中心に習熟度別クラスを編成し、丁寧に対応する。 指標 習熟度別クラスの編成。必要に応じて補習を行う。	B
取組内容④【ICTを活用した教育の推進】【施策2】 教科の学習指導においてICTを活用し、多面的な授業を推進する。また、情報系の授業においては、ICTの活用方法を念頭に置いて授業を展開する。また、情報処理検定の合格者数の増加を図る。 指標 全商情報処理検定1・2級の合格率が全国平均を上回る。	B
年度目標の達成状況の結果と分析	
<p>①全員合格を目標としていたが、合格率は92%であった。</p> <p>②簿記検定の2年の合格率は、2級96%、1級42%であった。3年の1級取得率は55%となった。電卓検定1級80%、2級90%であった。情報処理検定を含め、すべての検定において、いずれも大阪府平均を上回った。</p> <p>③「財務会計Ⅰ」「会計演習」では、習熟度別クラスを編成し、丁寧に対応した。生徒は、検定試験の取得を目指し、検定前補習、宿題や課題に意欲的に取り組んでいた。</p> <p>④実習やICTを活用した授業を展開した。1級20%、2級85%の合格率であった。1級はほぼ全国平均と同じで、2級は上回った。</p>	
次年度への改善点	
<p>各商業科目での授業方法や教材を教科担当者間で共有できる体制を整える。</p> <p>合格を目指す検定試験の合格率を上げるよう努める。</p> <p>教科指導におけるICT技術の更なる活用を研究し、生徒の学習理解の向上に努める。</p>	

教科外指導—特別活動

年度目標	達成状況
地域連携および地域貢献など、集団活動や体験的な活動を通して豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図る。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【地域連携と貢献】【施策1】</p> <p>部活動を中心に、地域の各種イベント等へ積極的な参加を行い貢献することで、さらに「地域に根つき、密着した学校」として認知されることをめざす。また、北区で唯一の公立高校として北区役所との連携を深め、北区はもとより大阪市全体に貢献できるよう、ボランティア清掃活動などの諸活動も推進する。</p> <p>指標 地域の依頼に応え、積極的に参加する。</p>	B
<p>取組内容②【LHRの活用の充実】【施策2】</p> <p>目的を定め、外部講師の招聘によって多方面に渡る教養を身につけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識を深化させる ・自己実現について考えさせる ・政治的教養を身につけさせる。 ・税に関する知識を身につけさせる。 <p>指標 LHRを活用して、講演を年1回以上実施する。</p>	B

年度目標の達成状況の結果と分析
<p>①地元主催行事が新型コロナの影響により軒並み中止になっているのが現状であるが、一部の部活動では、地域活動に参加し発表を行った。</p> <p>②「いじめについて考える日」に全校生徒に対し校長より講話を実施した。また、LHRを活用し「いじめアンケート」を各学期に実施した。</p>

次年度への改善点
<p>状況が落ちついていたら、部活動、同好会を問わず、地域と社会に貢献する活動に積極的に参加していきたい。</p> <p>「LHRの活用の充実」については、外部への見学、講演への参加等の機会をより多く設けたい。また、18歳成年になり、契約等のトラブルがないようにパンフレットを活用した学習の機会が必要である。</p>

学年経営－ 1 学年

年度目標	達成状況
規範意識を高め、基本的な生活習慣を確立させ、学校生活全般を通じて進路に対する意識を高める。また、一学年2学級における学校生活の充実をはかる。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【規範意識を高める】【施策1】 登校時・授業開始時・提出物期限等、時間厳守を徹底させる。身だしなみを整え、高校生としてふさわしい学校生活を送れるよう指導する。	C
指標 年間遅刻回数および生徒指導部からの指導数を前年数の10%減少させる。	
取組内容②【進路意識の向上】【施策1】 年度当初より個人懇談を行う。産業社会と人間・HR等で系列科目選択を指導し、自らの進路について考えさせ、主体的に進路選択する態度を養う。また、学年集会で各担任より講話する機会をもち、進路に対する意識を高める。	B
指標 クラス全生徒との個人面談を1回以上行う。学期に1回以上の学年集会で各担任から講話する機会をもつ。	
取組内容③【基礎学力の向上】【施策2】 朝の学習を行い、基礎学力の向上をめざす。	B
指標 朝の学習を週2回実施する。	
取組内容④【学年だよりの発行】【施策1】 学年だよりを発行し、必要に応じた内容を掲載し情報を提供するとともに、担任団からのメッセージを送る。学校ホームページにも掲出する。	B
指標 学年だよりを月1回発行する。	

年度目標の達成状況の結果と分析

- ①教務遅刻は達成することができたが生指遅刻は達成できなかった。指導数も10%減少させるまでには至らなかった。
 ②指標どおり行うことができた。
 ③④指標通り行うことができた。

次年度への改善点

2学年は中だるみをしやすいので、自分のことばかりではなく新しいことにチャレンジさせたり、学校全体のことを考えて行動させるようにしていきたい。

学年経営－ 2 学年

年度目標	達成状況
規範意識を高め、集団生活のルールを守るよう指導し、基本的な生活習慣を確立させるとともに自ら考え、主体的に行動できる態度を養う。 また、授業・HR・学年集会等さまざまな機会を通じて進路に対する意識を高めるとともに、進路情報を収集し活用する力を養う。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【規範意識を高める】【施策1】 登下校時・授業時・提出物等の時間や期限の厳守や身だしなみ・言葉遣い・挨拶の励行といった生活習慣を継続できるよう日々の学校生活の中で育成する。 また、HR活動や校内行事、校外学習、修学旅行を通じて、集団の中で主体的に行動し、規範意識をもって社会生活に適応するための素養を養う。	B
指標 年間の遅刻数を昨年度(生指遅刻92、教務遅刻83)より減少させる。	
取組内容②【進路意識の向上】【施策1】 進路指導部との連携を深め、オープンキャンパスなどへの参加を奨励するとともに、キャリアガイダンスなどを行い、進路情報の収集・活用の能力を育成する。	B
指標 年間2回以上の面談を行う。	
取組内容③【基礎学力の向上】【施策2】 昨年度に引き続き朝の学習を行い、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。また、実力テスト、小論文指導などの外部テストを利用し、学習意欲を喚起する。	B
指標 朝の学習を週3回実施する。定期考査前は毎日実施する。	
取組内容④【学年だよりの発行】【施策1】 昨年度に引き続き学年だよりを発行し、必要に応じた内容を掲載し情報を提供するとともに、担任団からのメッセージを送る。学校ホームページにも掲出する。	B
指標 学年だよりを月1回発行する。	

年度目標の達成状況の結果と分析

- ①2年生になって生活習慣が崩れがちな生徒が少数ながら存在しており、遅刻や欠席が目立っている。12月の修学旅行では時間通りに集合や行動ができ、規範意識の向上を感じることができた。また、修学旅行の平和学習についての事前指導を現代文の授業を通じて実施し、現地の資料館見学に役立てることができた。
- ②4月に個人面談、夏季休業中に三者面談を実施した。成績不振者への三者面談を2学期末に実施した。
- ③今年度も朝の学習を週3回実施している。また、実力テストを1回、小論文講座を3回実施し、希望者には2月に模擬試験を実施した。
- ④学年だよりをほぼ月に1回発行し、学校の様子を保護者へ伝えている。

次年度への改善点

最終学年に向けての自覚を育成することが最大の目標である。遅刻や欠席をしないための指導を強化する必要があると感じた。また、南高校と西高校の生徒とコミュニケーションを取りながら、新しい学校の土台づくりの中核となれるよう指導していきたい。進路指導においても目標とする進路先に向けた指導を進路指導部や各教科と連携を取りながら指導にあたりたい。

令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

学年経営－ 3 学年

年度目標	達成状況
規範意識を高め、集団生活のルールを守るよう指導し、基本的な生活習慣を確立させるとともに自ら考え、主体的に行動できる態度を養う。 また、授業・HR・学年集会等さまざまな機会を通じて進路に対する意識を高めるとともに、進路情報を収集し活用する力を養う。	A
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【規範意識を高める】【施策1】 登下校時・授業時・提出物等の時間や期限の厳守や身だしなみ・言葉遣い・挨拶の励行といった生活習慣を継続できるよう日々の学校生活の中で育成する。 また、HR活動や校内行事、校外学習を通じて、集団の中で主体的に行動し、規範意識をもって社会生活に適応するための素養を養う。	A
指標 年間の遅刻数を昨年度より減少させる。	
取組内容②【進路意識の向上】【施策1】 生徒ひとりひとりの希望の進路を実現するため、進路指導部と連携を深め、各自の進路希望に応じた支援を行う。具体的には、個人面談や三者面談、面接指導、小論文指導などを適宜おこなう。	A
指標 希望進路実現100%を達成する。	
取組内容③【基礎学力の向上】【施策2】 進路別に朝の学習を行い、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。また、実力テスト、小論文指導などの外部テストを利用し、学習意欲を喚起する。	A
指標 朝の学習を週2回実施する。	
取組内容④【学年だよりの発行】【施策1】 昨年度に引き続き学年だよりを発行し、必要に応じた内容を掲載し情報を提供するとともに、担任団からのメッセージを送る。学校ホームページにも掲出する。	A
指標 学年だよりを月1回発行する。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じて各目標を達成することができた。 ・寝坊・不注意の遅刻は約25%であり、昨年度の約44%から減少した。 ・一般入試受験中の生徒数名あり。引き続き指導中である。就職希望者は全員内定。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・登校できないリスクに備え、Edmodo・リモート授業等の準備が必要である。 ・中堅大学の合格者が多かった。進学結果を分析し全教員で共有する機会をもつ。 ・3年間の遅刻分析の結果、体調不良・交通遅延等を除き、寝坊・不注意等の理由は全体の35%程度であった。 	